

## ラクト・ジャパン | 3139 |

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。  
詳細レポート全体につきましては弊社ウェブサイト (<http://www.sharedresearch.jp>) をご覧ください。



2023年10月12日、株式会社ラクト・ジャパンは、2023年11月期第3四半期決算を発表した。  
(決算短信へのリンクは[こちら](#)、決算説明補足資料へのリンクは[こちら](#))

### 2023年11月期第3四半期（2022年12月～2023年8月）実績

#### 概要

- 売上高：117,330百万円（前年同期比9.2%増）
- 営業利益：2,404百万円（同13.1%減）
- 経常利益：2,060百万円（同24.4%減）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益：1,435百万円（同27.2%減）
- 為替レート：1米ドル136.71円（前年同期は124.80円）、1ユーロ147.96円（同134.50円）

2023年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高73.3%（2022年11月期実績に対する前年同期実績の進捗率72.9%）、経常利益64.4%（同86.9%）、当期純利益61.6%（86.2%）となった。

#### 事業環境

当第3四半期は、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことに伴い、経済活動が回復し、なかでも外食やレジャー産業などの回復傾向が鮮明となり、食品業界では業務用需要が戻り基調となった。一方で、原材料・エネルギー価格の上昇や、円安による物価上昇で多くの食品で値上げが続き、消費者の購買力に影響を与えて国内消費には陰りもみられた。世界ではロシア・ウクライナ情勢の長期化や世界的な金融引き締めによる景気減退懸念が広がり、先行き不透明な状況が続いた。

国内の食品業界においては、人流の増加とともに業務用の食品需要が回復した。しかし、春以降に食品価格の値上げが続いた影響で、個人消費は伸び悩んだ。同社の主要市場である乳業界では、コロナ禍以降課題となっていた脱脂粉乳在庫の水準は減少に転じたものの、2023年8月に実施された飲用向けの乳価値上げの影響で乳製品の消費が減少している。

アジア市場においては、東南アジア各国で旅行客などの回復により業務用需要が戻りつつあるものの、中国の景気後退が各国の食品需要に影響を及ぼしている。

#### 増収の要因

増収の主な要因は、2022年における相場高と円安の影響により、商品単価が上昇したためである。前述のような事業環境の下、国内事業は乳原料の一部製品や輸入豚肉の販売において、業務用を中心に順調に推移した。しかし、アジア・乳原料販売部門は、日本国内脱脂粉乳の過剰在庫対策により輸入原料から国内原料への置き換えが進み、日本向けの調整品原料販売は減少した。アジア・チーズ製造販売部門では、プロセスチーズの販売が伸び悩ん

だ。新規事業である機能性食品事業は、プロテイン原料を中心に提案型営業活動を積極的に展開し、販売は順調であった。

### 営業減益の要因

国内事業で販売数量が伸び悩んだことや、アジア・チーズ製造販売部門における原材料価格の上昇などにより利益率が低下したことで、減益となった。売上原価は前年同期比9.8%増加し、売上総利益は同1.3%減となり、売上総利益率は5.0%（同0.6%ポイント低下）となった。営業利益は同13.1%減少、営業利益率は同0.6%ポイント低下して2.0%となった。

### 経常利益は同24.4%減益

前年同期は180百万円の為替差益を計上したが、当第3四半期は為替差損が76百万円となった。なお、当第3四半期の経常利益には為替のマイナス影響が90百万円含まれており、その影響を補正した調整後経常利益は2,149百万円となる。期初予想の経常利益3,200百万円に対し、調整後経常利益の進捗率は67.2%であった。同じベースで補正した前年同期の調整後経常利益2,654百万円と比べて、調整後ベースでは前年同期比19.0%の減益であった。

\* 同社では、営業取引において為替リスクを回避するため、外貨仕入額に関して基本的に仕入契約締結時に為替予約を行っている。一方、会計処理における仕入計上は、仕入契約を締結してから一定期間経過した後の船積時に行われる。円高が進行している場合には、仕入計上時に使用する為替レートが予約レートを下回る（円高）ことになる。売上時に認識される売上総利益は、仕入計上レートを使用した売上原価をもとに算出されるため、この時点の売上原価は、円高の影響により仕入契約締結時に定めた原価よりも低くなる。一方、このような場合には、為替ヘッジの効果として、営業外収益に為替差損が計上される。

## 部門別の動向

**乳原料・チーズ部門：売上高83,158百万円（前年同期比14.9%増）・販売数量124,799トン（同11.5%減）**

2023年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高78.2%、販売数量72.6%となった。

乳原料販売部門では、夏季のレジャー・旅行需要の回復により、アイスクリームやチョコレートの原料となる乳糖や全粉乳など、一部の乳原料の販売は順調であった。一方、国産脱脂粉乳の在庫調整は順調に進んでおり、在庫量は2022年5月に100千トンのピークをつけたあと減少が続き、2023年3月以降は60千トン台で推移している。同社では国産脱脂粉乳の過剰在庫対策のため、主要なユーザーにおいて輸入品から国産品への原料の置き換えが続き、脱脂粉乳や粉乳調整品の販売数量が減少した。ここ数年取り扱いが増えていた国産原料の販売は、国内向け・輸出处向けともに減少した。

チーズ販売においては、外食需要は比較的好調であったものの、最終製品の値上げにより小売需要が伸び悩んだ。為替市場で円安傾向が続いた中で、同社はグローバルなネットワークを活用し、価格競争力のある商品を販売し他ことで、堅調に推移した。なお、同社によれば、チーズの国際価格は今期に入って低下しており、引き続き拡販およびシェア拡大に努めるとしている。

**食肉食材部門：売上高13,413百万円（前年同期比22.8%増）・販売数量20,835トン（同14.3%増）**

2023年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高88.2%、販売数量74.4%となった。

食肉食材部門では、外食を中心とした業務用需要の回復が続き、主力商品であるチルドおよびフローズンポークの販売が増加した。輸入ポーク市場では、昨年流行したASF（アフリカ豚熱）の影響や、コスト高による生産量の減少を受けて欧州産ポークの市場価格が上昇する中、北米産ポークへの引き合いが増えている。同社はポークを主に北米から仕入れており、同社製品は品質・価格両面で顧客から高い評価を得て、順調に販売を伸ばした。米国

の主要サプライヤーでは、コロナ禍の労働者不足から生産量が減少していたが、人材確保が進んだことで生産体制の改善がみられ、足下で回復している。同社によれば、チルド・フローズンポークの調達は順調である。

食肉食材部門では取扱商品の多様化を図っており、当第3四半期では鶏肉および鶏肉加工品の販売が伸長した。それぞれ新規の取引が開始しており、今後も取引拡大に注力するとしている。

#### アジア事業・その他：20,757百万円（前年同期比14.2%減）

乳原料販売部門（商社）：売上高14,098百万円（前年同期比27.3%減）・販売数量27,479トン（同29.4%減）  
2023年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高52.6%、販売数量48.6%となった。

乳原料販売部門（商社）においては、日本で輸入原料から国産原料への置き換えが進んだことを受けて、粉乳調整品原料の販売が減少した。過剰在庫対策事業により日本国内の脱脂粉乳在庫の調整が進む中、日本から輸出される脱脂粉乳の数量が減少し、東南アジア地域のローカルメーカー向けの販売も中国景気後退の影響により伸び悩んだことから、販売数量は前年同期比29.4%減となった。同社によれば、中国向けの輸出が減少していることで、オセアニア産乳原料の輸出企業が中国以外のアジア諸国に向けて販売を行っており、同社との競争が激化している。

チーズ製造販売部門（メーカー）：売上高3,473百万円（前年同期比20.1%増）・販売数量3,541トン（同1.1%減）  
2023年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高75.5%、販売数量60.0%となった。

チーズ製造販売部門（メーカー）においては、景気後退の傾向がみられる中国の需要減退の影響が大きく、中国向け食品を製造する食品メーカー向けのプロセスチーズの販売が想定を下回った。地域別では、中国および国内の景気鈍化が懸念されるタイにおける販売数量の減少が顕著であった。

シンガポールやマレーシアでは、中国の景気後退の影響はあるものの、現地の外食向け需要の回復や新規顧客との取引開始などにより、プロセスチーズ、ナチュラルチーズともに販売は底堅く推移した。シンガポールの新工場は、2025年上期からの稼働を目指し、建設準備が進んでいる。

また、近年引き合いが増えているナチュラルシュレッドチーズの販売は、外食向けに順調に増加した。利益面では、昨年の原料チーズ相場の高騰により、プロセスチーズの利益率が低下した。

その他：売上高3,186百万円（前年同期比67.3%増）

2023年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高45.5%となった。

その他の事業として2020年11月期から開始し、新たな成長の柱として注力している機能性食品原料、なかでもプロテイン原料の販売が堅調であった。プロテイン関連ビジネスでは、原料販売にとどまらず、複数の原料の組み合わせによるレシピ提案を強化しており、その結果、販売先や販売先が徐々に増えつつある。

#### 財政状況について

流動資産は前期末より7,047百万円増加し、77,114百万円となった。主な要因は、商品および製品が4,857百万円、現金及び預金が3,172百万円それぞれ増加したことによる。固定資産は前期末より157百万円増加し、3,547百万円

となった。これは主に、投資その他の資産が161百万円、無形固定資産が25百万円増加した一方、有形固定資産が28百万円減少したためである。

流動負債の残高は前期末より4,250百万円増加し、45,352百万円となった。運転資本の増加に伴い、短期借入金が7,213百万円、コマーシャル・ペーパーが1,000百万円増加した一方で、買掛金が3,557百万円減少したことによる。固定負債は主に長期借入金が1,238百万円増加したことから、前期末より1,205百万円増加して11,078百万円となった。純資産は、利益剰余金が8百万円、為替換算調整勘定が544百万円、繰延ヘッジ損益が325百万円それぞれ増加したことから、前期末と比べ1,749百万円増の24,230百万円となった。

棚卸資産は前期末より4,539百万円増加し、45,922百万円となった。この主因は、前期の商品相場高・円安時に契約した商品の仕入れが進んだことによる、円建ての商品単価の上昇に加え、次の2つの数量要因が挙げられる。なお同社によれば、棚卸資産は原則販売に紐づいており、在庫リスクは負っていない。

- 1) 国内のチーズ市場では最終商品の値上げで需要が低調となり、同社の原料販売の進捗が鈍化した。
- 2) 食肉食材事業においては、欧州地域での相場高を受けて北米地域の食肉メーカーからの原料を早めに確保する動きがあり、発注が増加している。



四半期業績動向 (3カ月)

四半期 (3カ月) (百万円)	21年11月期				22年11月期				23年11月期		
	1Q 連結	2Q 連結	3Q 連結	4Q 連結	1Q 連結	2Q 連結	3Q 連結	4Q 連結	1Q 連結	2Q 連結	3Q 連結
売上高	23,994	28,654	26,982	31,253	31,755	38,033	37,698	39,938	38,745	41,705	36,880
前年同期比	-15.0%	-3.5%	-0.6%	21.3%	32.3%	32.7%	39.7%	27.8%	22.0%	9.7%	-2.2%
売上原価	22,316	26,957	25,325	29,644	30,033	35,799	35,659	38,470	36,639	39,809	34,969
前年同期比	-15.9%	-3.6%	-0.6%	22.3%	34.6%	32.8%	40.8%	29.8%	22.0%	11.2%	-1.9%
原価率	93.0%	94.1%	93.9%	94.9%	94.6%	94.1%	94.6%	96.3%	94.6%	95.5%	94.8%
売上総利益	1,678	1,697	1,657	1,609	1,722	2,234	2,039	1,467	2,107	1,896	1,912
前年同期比	-0.5%	-1.4%	-1.2%	4.3%	2.6%	31.6%	23.0%	-8.8%	22.4%	-15.1%	-6.2%
利益率	7.0%	5.9%	6.1%	5.1%	5.4%	5.9%	5.4%	3.7%	5.4%	4.5%	5.2%
販管費	865	979	942	1,067	982	1,106	1,140	1,262	1,093	1,203	1,214
前年同期比	-6.2%	8.3%	6.7%	11.4%	13.5%	13.0%	21.0%	18.2%	11.4%	8.7%	6.5%
売上高販管费率	3.6%	3.4%	3.5%	3.4%	3.1%	2.9%	3.0%	3.2%	2.8%	2.9%	3.3%
営業利益	813	717	715	542	740	1,127	898	205	1,013	692	698
前年同期比	6.4%	-12.2%	-9.9%	-7.2%	-9.0%	57.1%	25.7%	-62.1%	36.9%	-38.6%	-22.3%
利益率	3.4%	2.5%	2.6%	1.7%	2.3%	3.0%	2.4%	0.5%	2.6%	1.7%	1.9%
為替差損益	-50	51	123	-43	7	-61	234	265	-242	53	114
前年同期比	-	-	580.0%	-	-	-	89.5%	-	-	-	-51.4%
売上高比率	-0.2%	0.2%	0.5%	-0.1%	0.0%	-0.2%	0.6%	0.7%	-0.6%	0.1%	0.3%
営業利益+為替差損益	763	768	838	499	747	1,066	1,132	471	771	745	812
前年同期比	-2.2%	0.7%	3.3%	-18.0%	-2.0%	38.9%	35.1%	-5.6%	3.2%	-30.1%	-28.3%
利益率	3.2%	2.7%	3.1%	1.6%	2.4%	2.8%	3.0%	1.2%	2.0%	1.8%	2.2%
経常利益	737	675	801	469	719	947	1,060	409	744	601	715
前年同期比	-2.1%	-0.8%	3.3%	-18.1%	-2.5%	40.2%	32.4%	-12.7%	3.5%	-36.5%	-32.6%
利益率	3.1%	2.4%	3.0%	1.5%	2.3%	2.5%	2.8%	1.0%	1.9%	1.4%	1.9%
当期純利益	527	484	590	358	524	684	763	317	509	414	512
前年同期比	-3.4%	-2.2%	4.0%	-21.2%	-0.6%	41.3%	29.3%	-11.6%	-2.8%	-39.5%	-32.8%
利益率	2.2%	1.7%	2.2%	1.1%	1.6%	1.8%	2.0%	0.8%	1.3%	1.0%	1.4%

出所：同社データを基にSR社作成

注：百万円未満を四捨五入（会社発表値は百万円未満切り捨て）

2023年11月期通期会社予想

		業績推移											
		売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS	BPS	ROA	ROE
		(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(円)	(円)	(%)	(%)
FY11/14	連結	96,550	27.1%	1,532	118.8%	1,653	-1.0%	988	-1.9%	127.79	1,165.58	4.5%	12.2%
FY11/15	連結	98,001	1.5%	720	-53.0%	1,343	-18.8%	831	-15.9%	98.94	1,062.54	3.3%	8.5%
FY11/16	連結	88,679	-9.5%	3,349	365.1%	1,434	6.8%	946	13.8%	96.79	1,167.72	3.7%	8.7%
FY11/17	連結	101,335	14.3%	1,924	-42.6%	2,523	75.9%	1,755	85.5%	179.48	1,302.98	6.0%	14.5%
FY11/18	連結	115,441	13.9%	3,009	56.4%	2,613	3.6%	1,784	1.7%	182.31	1,462.35	5.5%	13.2%
FY11/19	連結	116,794	1.2%	3,144	4.5%	2,747	5.1%	1,963	10.0%	200.11	1,618.31	5.7%	13.0%
FY11/20	連結	110,838	-5.1%	2,959	-5.9%	2,781	1.2%	2,062	5.1%	209.47	1,774.58	6.1%	12.3%
FY11/21	連結	110,884	0.0%	2,787	-5.8%	2,682	-3.6%	1,959	-5.0%	198.73	1,978.42	5.6%	0.11
FY11/22	連結	147,423	33.0%	2,959	6.2%	3,135	16.9%	2,287	16.7%	231.64	1,774.58	6.1%	12.3%
FY11/23	連結会予	160,000	8.5%	-	-	3,200	2.1%	2,330	1.9%	235.52	-	-	-

出所：会社データよりSR社作成

注：百万円未満を四捨五入（会社発表値は百万円未満切り捨て）

2023年11月期通期連結業績予想

- 売上高：160,000百万円（前年比8.5%増）
- 経常利益：3,200百万円（同2.1%増）
- 当期純利益：2,330百万円（同1.9%増）
- 1株当たり当期純利益：235.52円（前期実績231.64円）
- 1株当たり配当金：48.00円（同40.00円）

当第3四半期決算発表時点で、通期業績予想に変更はない。

酪農・乳業界では、2023年8月の飲用乳価の値上げによる乳製品消費の低迷を懸念しており、乳製品の今後の需要動向、脱脂粉乳在庫の状況に注視が必要である。同社は価格競争力のある輸入原料の需要が拡大すると見込んでおり、輸入原料の販売に注力して拡販を図る方針である。

**事業別同社予想**

乳原料・チーズ：売上高106,400百万円（前期比7.7%増）、数量172,000トン（同6.0%減）

食肉加工品：売上高15,200百万円（前期比0.4%増）、数量28,000トン（同13.0%増）

アジア事業乳原材料販売：売上高26,800百万円（前期比0.5%増）、販売数量56,500トン（同12.1%増）

アジア事業チーズ製造販売：売上高4,600百万円（同15.5%増）、販売数量5,900トン（同23.3%増）

その他：売上高7,000百万円（前期比149.3%増）

掲載企業の[詳細レポート](#)もご覧ください。

## 株式会社シェアードリサーチについて

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

### ディスクレームー

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。

株式会社シェアードリサーチの役員および従業員、ならびにその関連会社および関係者は、本調査レポートで対象とされている企業の発行する有価証券に関して取引を行っており、または将来行う可能性があります。

### 金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

### 連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.  
東京都千代田区神田猿樂町2-6-10 Daiwa猿樂町ビル1階  
<http://www.sharedresearch.jp>  
TEL : (03)5834-8787 / Email: [info@sharedresearch.jp](mailto:info@sharedresearch.jp)